

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

紙書筆記
5-A
35/

經濟學部
研究會
5-A
357



41130

伊那記之序

山田

夫日域地形長于東西信列橫南北土地高而包
 孕于拾余品上野武藏甲斐駿河遠江三河無海潮以出岳
 為彊水流四方國吊以為信濃投桑似帶要諏方湖
 名鵝湖水面遠落富影流天流川至千遠江灘萬
 里無際木曾或人為和國蜀
 道消々水流名木曾川經於尾濃洋溢於伊勢海
 北千隈岸川り會浸於更科之月洋洋到千越路海
 淺間嶽煙燭之四時不消其北碓氷水落上乃利根

山田

川東廻總常漲鹿嶋漢或者曰本記中臣稔等
天孫降臨之旨以經津主神為上將武甕槌神為副
將以平於豐葦原不從神而健御名方神以諏方
地養父為國見焉蓋諏方伊那自神代字而方
葉之假名書也又往首諏方以之野王欲遷帝都於
諏方見日本記近代統前國堂皇貞原篤信波岨記
行伊奈名所多誌之所謂風越簡原奈久利久米路
等也往首東仙道之駄路中古關木曾山徑以永漸
為近鄙往首伊奈國司入部千信列始西越東坂

曰御坂山曰風越其林蔭之原野曰曾野原以四首詠歌
可考之所謂有長者屋敷跡此東出雖今無往未
小野川聞是也楊枝木賊今猶七曲湯乃久米路
橋有路耳伊奈郡續五國二郡甲斐駿河三河遠江
美濃諏方郡筑摩郡
續同東甲斐國自根金沢前嶽降安倍川入大井
川上而其境容易難知耳南信別遠山支遠山奧山
垠曰昔崩遠山六ヶ村上村和田八重河内見大流川東
也其西福鴻向方新野二反設樂郡境トス仙路沓加茂
郡垠根羽平谷波舍在蛇峠坤方有桂天高山阿智

川源、而義濃由那郡堺此兩山間、三濃與信伊
奈郡、通路也、自木曾妻籠、南原廣瀬、清内路
と木曾伊奈山境也、此書駒至以連峯、為鹽
妻籠、駒ヨリ至テ洗馬、駒ニ東西希、通路而伊奈、小
野、八彦社ヲモツテ芋、筑摩郡、為境、伊奈平出村、諏方、
駒沢村、天流川、長、坂ナリ也、良、昔杵、嶺ヲモツテ諏方、與、
伊奈堺也、此書大概伊奈郡中、知地形、指南也、

伊奈郡鄉村記

一信濃國伊奈郡、南陽、清内、とて、小、筑摩郡
と、小、建、八彦、社、の、東、北、角、小、川、の、南、橋、也、妻、濃、文
治、二、年、歲、次、丙、寅、の、う、り、中、央、の、方、の、海、方、郡、有、賢、宗、
の、為、海、方、新、田、伊、奈、郡、田、与、村、の、境、と、宮、外、の、方、
海、方、の、境、と、院、杖、實、宗、と、柳、宗、と、示、と、頂、上、と、限、
と、長、東、の、川、東、原、院、と、縣、之、打、越、れ、を、聖、別、國、郡、原、
己、の、方、海、方、の、西、阿、部、川、入、己、午、の、方、海、方、の、を、山、庄、と、
為、宗、聖、別、院、と、長、飯、田、の、り、海、方、聖、山、庄、和、村、

[illegible][illegible]

百指公七年二年七合寄信部不指部方部
百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

藤原公代棟札等小部系又部系

小野部 名所 夕毛里 古歌

信原成信の部小部系又部系

今より百指公七年二年七合寄信部不指部方部

元和年中より御公信部 小部系又部系

今より百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

百指公七年二年七合寄信部不指部方部

詔永享四年九月甲寅奉敕因常武院一條原
於松尾原方之原一信別所大田内城之松尾
太友則以討之一年永樂寺村之上原方之原
一宗清寺車馬艦小見之より天正年中甲午丹後
と小郷王居館とあり

一宮

古くは百三十三年と云ふ
今より百三十三年と云ふ

無事地方の事社之性質乃掃礼之教
文字の事天正年中氏田掃礼之掃礼之寺
本列伊那上郡宮本詞頻年以來柱根腐

敗梁棟傾斜焉茲余諏方高嶋居住春
芳禪入寶殿一宇軒新再造近已終其功矣
仰攸希者聖加鎮安邦家風調雨須闡神
從長護社稷國泰民康如之退散所對恐
歎於萬里外紹隆王系代之武運於億春同
以祈以禱狀如件

維辰天正三曆己亥仲春如意日源勝賴謹誨
弘治天正三曆己亥仲春如意日源勝賴謹誨
今天白の山城とあり

一 新町

今高 二百五十五石 七斗 六升

一 小倉

古高 二百五十五石 七斗 六升

二 村と成

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

三 村と成

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

四 村と成

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

五 村と成

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

六 村と成

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

七 村と成

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

今高 二百五十五石 七斗 六升

一 辰野

今高 二百五十五石 七斗 六升

一 平井

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

今高 二百五十五石 七斗 六升

一 沢底

今高 二百五十五石 七斗 六升

一 樋口

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

今高 二百五十五石 七斗 六升

今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升 今高 二百五十五石 七斗 六升

天文中
千村
某

秋山伯老為源山至我

手啓之臨陽去進允知人改爲市廛食我百強年以
永豫之子成爲有飯田成代之有福爲無係之信云次
男猶賴之仁神也源月示建播於政人源始者唐尉

向山勲雲守小南切藩主也安部中將の竹田中將は
秋正記傳守小南下藩主也同氏丹後人也如金吾
騎之出守物も亦不曉佐の嫡子安部義任父の奉
小南へ仕雲氏依て物持嫡子に立甲府へ移るも
元治川の郡佐盛仁科とあると立后藏と云ふ事
と依氏元龜二年の事後見氏用と總て女佐總令
道達新入殿より而中と云ふ物も小南よりと
今岡松に云部山佐因の弟お平小と依ては依氏之
仁科の弟佐盛氏云ふ年寅の十二月廿五日光任藏摩

親居成田中の城代首之職に責ありしに御免神君
（降参）天正八年神君没し其子大守成法に付時
正在と聞えし福の地を神樂院前寄書に居る言ひ違
居り知れ亡く天下に掌握し居り家康公より東玉
少く大坂城宛たり文政二年より信州郡留置し其地
理を更練し知れぬ光景を尋ねたり居城より世に由
之傳聞授けたりと云ふなりと云ひてせめて物子の在る
横と云ふと云ふ大岡義吉公より遠祖田に知れぬ書に
江傳付公より名甲山城郡より名飯田長根城と云ふ所

書上りて言ふ見へり大國宛に度家原公の度長と
當年再度保神導心正ふ所なり新領二万石に元和
年中長子把法有光嗣子に之傳ふ把法守と改む
是より公方爲忠公前住御家子成法正光嘉高とて
德保神家依之に之實永丁二年得此山形の島井心
經没收の跡神祇万人賜り叙任出来は右近坊の
乃是別傳軍家先公の爲君之世源と名井公の忠孝
公後ふ主權に依て三万石に領せしかるを以て
島井氏と名え先有井氏と名へ之を忠孝長と年月府家

康公の令小孫て伏見の殿に就くち政方の大軍小孫を
内蔵院に召し置長と云ふおれを元太の長子太政大臣
貞良公藏後方太政大臣元初は年若相玉雲と郡山
蔵所を御孫と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
太政大臣と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
小初は孫て毒食小初は孫神極親と云ふ毒食小
太政大臣と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
貞良公藏後方太政大臣元初は年若相玉雲と郡山
蔵所を御孫と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山

文
初は孫て毒食小初は孫神極親と云ふ毒食小
太政大臣と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
貞良公藏後方太政大臣元初は年若相玉雲と郡山
蔵所を御孫と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
太政大臣と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
貞良公藏後方太政大臣元初は年若相玉雲と郡山
蔵所を御孫と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
太政大臣と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山
貞良公藏後方太政大臣元初は年若相玉雲と郡山
蔵所を御孫と云ふ所を元初は年若相玉雲と郡山

定乃城山陸奥行

水陸軍士

元禄二年九月三日

陸奥守 佐々木

初代守御代有るる宗室等(諸田重之助)文政
元禄二年松代藩津久城より田沼重之助等より
惣役地より月金三百石を余計に

元禄四年末

月夜井屋守 宗室藩政

折取田城より前より尚蔵より三百石を石代藩宛に
馬より新より石代藩所蔵入に成り月夜井屋守之實に
性善なる(二)田沼重之助九年より月夜井屋守に書す

中春父の系那の由月夜井屋守重之助より書す
松代藩より石代藩宛に三百石を石代藩宛に
書す早世は終いとして宗室家運と云うて惣役地より
大元禄二年末の右助と蔵より月夜井屋守に役紙は作
月夜井屋守に役紙は作と云うて右助の子孫に
かゝる大元禄八年より石代藩宛に元禄二年より月夜井屋守
に役紙は作と云うて元禄二年より石代藩宛に役紙は作
家より元禄二年より石代藩宛に役紙は作と云うて
長元禄二年より石代藩宛に役紙は作と云うて

華有華之清名彰彰現日如所至師世所傳其真
 年矣之方保其年三月當主以新之域下之其里為之
 修持村史其年之小知國知東之七年任君之廣域
 下之天下經經用知東之移凡

○洋行

今有之百四種或八十八年沙合

一 芳沃

今有百四種或八十八年沙合

一 豆東

今有百四種或八十八年沙合

元曆年中至本年之秋在大神山之山居久無本年

中至東中移之思任之文龍永而此後乃信貞任之派
 今有東清之思任今有大海之思任今有大神山之思任

一 大湯

今有百四種或八十八年沙合

一 吉湯

今有百四種或八十八年沙合

一 日新

今有百四種或八十八年沙合

一 百町

今有百四種或八十八年沙合

他日新 廣西 古新 古村 下之里之成

萬永年中大湯河内古新鼓源河内古新鼓源

宇津浦 弘治二年 弘治二年

一 概 弘治二年 弘治二年

上 弘治二年 弘治二年

野 弘治二年 弘治二年

〇 弘治二年 弘治二年

上 弘治二年 弘治二年

〇 弘治二年 弘治二年

一 雨 弘治二年 弘治二年

内 弘治二年 弘治二年

弘治二年 弘治二年

一 雨 弘治二年 弘治二年

弘治二年 弘治二年

弘治二年 弘治二年

弘治二年 弘治二年

國衛進上右文治二年二月丁酉改元是上以考元七年廿五歲後
 系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

東洋橋上一起系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一的場

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

一板町

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

今有西條町之七年廿五歲後系礼御柱之号是上考元七年廿五歲後

天正十年陽月氏伏於神宮一原のち度るを以て下也

一戸倉

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

是より後村小倉の計より倉の計より後村小倉の計より

入、若原古庫八斗

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

應永年中山田新田(附)村の考より神宮松原神社

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

一山田

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

右の百五拾五斗七升七合
今より百五拾五斗七升七合

死者と射教一いふ事あり首と肩の内を抱て居ると
 見そ如家一草庵と雖いそ源と帯いたるを以て後食を
 法燈圓師は延きし終ひ有て庵を寺と命づるを
 いふ人の末より傳田より中村氏之明徳宗派に流る

所記あり

一 大之保

一日山

一 保宗

そ部一保村より保宗村の世郡村あり

右より百五十年

今より百五十年
 右より百五十年
 今より百五十年
 右より百五十年
 今より百五十年

一 中山

一 曾根

一 曾食

今より村

大曾食 今より百五十年

中曾食 今より百五十年

一 吉原

一 栗林

一 瑞田

右より百五十年
 今より百五十年
 右より百五十年
 今より百五十年
 右より百五十年
 今より百五十年
 右より百五十年
 今より百五十年

是と指す村々より影を合ふ字に宿志九年家沙合

世系表

右系は村是の春迎組と成

一 小島

右より小島村は山田中村と合ふ

建久年中二歳に島村結成し息成房九世所流結成

右より小島村は山田中村と合ふ

寛政九年丁卯年島村七歳に島村結成し息成房九世所流結成

東長島より結成し息成房九世所流結成

一 眼田

右より眼田は山田中村と合ふ

一 殿治

右より殿治は山田中村と合ふ

今も眼田と一とく

天文年中殿治殿治殿治の孫弘治二年信玄より家

名を夫より一統小島殿治殿治の孫弘治二年信玄より家

一 田原

右より田原は山田中村と合ふ

一 中城

右より中城は山田中村と合ふ

寛永七年丁卯年中城は山田中村と合ふ

一 下牧

右より下牧は山田中村と合ふ

寛永七年丁卯年中城は山田中村と合ふ

春迎組小島村は山田中村と合ふ

表

今世村分

今高田百五十五坪
今高田百五十五坪

福海

今乃

今予留此志之

一

古子小信也平以年乃合其
今子小信也七信之六斗以年乃合

今世村々

言首尾余
高所田中

高昌路公案 小劉山并初至

寛永年中、吉田大和守居任、其子弘治、年位高、
 吉田氏家名を失ふ、其長年中、北近東三郡、
 吉田氏を以て家名を失ふ、其子弘治、
 是より、吉田氏、吉田氏、吉田氏、吉田氏、

蘇軾那波馬路八村新了舍字留書上落定

平聲谷爲本波馬思垂獨波爲小音韻小雅仄針

虎丘見古村是之云云
商遠腹也

國方方亦子七百廿五之平其殊於
烟方方亦

山崎七郎左衛門
村松八郎六右衛門

人股多入東
元文元年改大禰之

家叔之子武有田徑之好 長子亦居定

牛富貴

張氏音義

神文町百五番七社
崇徳寺

寺院北麓山寺月御來市地 淳子村 長岡寺
高遠之石 字石月

城下町方上石寺御自持之壬午年原本在
或吳中富民村七居之村今在村分
義成店持之村板町之富民以寺地外
富市強執 聚富田 行食板山田野
北東中村荒町中東水上
川中里持之村建屋上石田寺地日新中割
古所下東廣為上縣上新田丹生子修持部組

横山修持部所山寺新田中中小水三室
妻近里持之村上應持之田所中割法信
中應持之寺中中割中水上般又久保柳沃
高本 白水 下般田東山寺
中應持之寺村 寺福志 志保中富金首原
蒲池 白水 寺福志 志保中富金首原
田 寺富金 聚林 中水 寺富金 寺富金
入首能西郷 小東 中尾 兆持 山室持
月發口里河月 寺富金 海日 市新板

鴻 上條郡大寺村。竺永。上鴻。今村。
山。大。横河。植口。人市場。南。水。赤。根。芋。赤。
下。山。作。底。事。為。幸。時。田。之。木。明。河。之。台。文。
所。為。河。口。赤。七。藏。

坐落名

省ハ坐落六郎ト云

大泉

久保 鹿村
田 杉屋之

信院ト云六ヶ村ト云村係ト云云云云村ト云云云
中。宋。之。他。ト云考。不。保。り。あり

示。雅。秋。水。曰。濱。水。涯。也。説。文。曰。浦。水。濱。也。
孫。炎。カ。濱。水。涯。也。涯。水。邊。也。廣。雅。曰。

浦。涯。也。皆。水。畔。地。也。同。物。而。異。ハ。名。

是。と。云。見。る。間。を。右。村。少。流。之。名。ハ。根。元。坐。落
の。根。元。ハ。福。子。城。ト。一。田。中。坐。落。ハ。城。ト。移。是。元
見。る。間。ハ。福。子。城。ト。云。云。言。新。福。子。福。子。之
是。と。云。又。流。川。ト。名。之。

一。説。ハ。坐。落。ハ。名。多。ク。一。百。年。前。落。来。の。名。ハ。同。落
上。代。ハ。少。知。要。ハ。本。年。申。鹿。村。ハ。福。子。の。標。元。ハ。

爰。信。別。伊。那。郡。箕。輪。在。木。下。村。在。社。檀。星。宿。遼
年。久。拜。殿。傾。落。而。因。來。棟。埋。地。時。地。主。ハ。笠。原。從。五。

順子堂即郭氏法是其傷家元祖之嫡子傷右
 子為我族 子為我族 子為我族 子為我族
 其嫡子堂即郭氏法是其傷家元祖之嫡子傷右
 子為我族 子為我族 子為我族 子為我族
 小郭子堂即郭氏法是其傷家元祖之嫡子傷右
 子為我族 子為我族 子為我族 子為我族
 傷刑郭子堂即郭氏法是其傷家元祖之嫡子傷右
 子為我族 子為我族 子為我族 子為我族
 大指天正格年。小堂系自慶之隨以成之切蓋以
 傷月美小堂即郭氏法是其傷家元祖之嫡子傷右
 子為我族 子為我族 子為我族 子為我族
 傷月美小堂即郭氏法是其傷家元祖之嫡子傷右
 子為我族 子為我族 子為我族 子為我族

毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶
 毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶
 毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶
 毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶

慶長六年

小堂系自慶之隨以成之切蓋以

知河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶
 毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶
 毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶
 毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶

御原屋敷地

毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶

御原屋敷地

毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶

南河長尾

毛利河內國同身之月。舊服大指天正格年。再慶

山崎長左

山崎中下村御所

山崎長左

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

山崎中下村御所

元禄十六年。

南條金吾

宣統二年。

于晉卿書

西曆一九二〇年。

述

高保元

郭燕中書

宣統二年

彭龍溪十所

月之歲平動定坑山歌

卷之六

李保軍印

海東先生
志雲

同治年古所成

却說

同七年 艺 古 版 画 所

李常璉

同子三申年

李之章

同治四年

松平九郎方丈

同十八廿九日。陸虎村。

卷七

元文元長子有智黃御陳至如風之吹倒手站處

陳鳳時 孫上江 徐月 周友 潘志 吳

七服處以少年貢地家數長七十五今年十月八日百

本年地味極豐宜早收之

元文又申ありて、大なる事あり

寛延己八月十日

信三郎

松清吉藏

松清氏は海軍性、流るる松清氏之生計

信三郎は松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

と云、松清氏は松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

曾孫と云記、松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

氏、中分討死と云、又、事中大分討死、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死、事中大分討死

時、松清氏一説、事中大分討死、事中大分討死

不害松清氏、松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

出雲松清氏、松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

出雲松清氏、松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

出雲松清氏、松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

松清氏之曾孫と云記、事中大分討死

一松涛

市郎周小松云云本松之末九松中之末也松之末者末上名
古云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者

御代官所中下松之地松之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者

中松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者

今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者

今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者

今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者

今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者
今云子松者古松之末也松中之末也今云村松者

享保十二年辰戌年科候時自五月為系

右田村 大沼村

右田村 大沼村

○中系新田 今より上格七十七年三年六分

享保元年招致代松崎より新田開墾次第所屬元札

年招致中格七十七年招致元札の別村と成元保元年

招致候よりより新田新田

一南山河内 今より上格七十七年三年六分

天保三年招致代松崎より新田開墾次第所屬元札

古城山天文 此より招致候時自五月為系

天文 比洲村市村の領地 天保三年申吉原村の招致より

一福子 今より上格七十七年三年六分

福子古城山と藩倉山とに在る河内守佐村二田村

嫡子と三郎浦実と東郷村とに在る河内守佐村二田村

佐人及法我親と佐流及佐村親連と佐功佐村と佐成

軍と佐村と佐功と佐成と佐流と佐功と佐成と

享保年中 天保三年元札

享保年中 天保三年元札

猶於畿内也。乃不坐。後、修永郡信長之族
下之修永郡郡代とて領田方城小毛利河内守飛騨
越前守石見守佐々木氏智先爲不坐。信永力
大右衛門甲列上原宗正立御く此岸廿年其相別水
条氏在上列通、信之部酒房甲以攻入神倉公之旗
河内列(史合我)當時無兵輕親も亦宗正の意をせ
吾等起し同有言堂に城之條科被命す西名、神倉
之屋見事也。輕い酒村古志耐頭之使、はる甲府
新府中御殿(海)山管科水座河内、水保方、是故に

今度も修好の御身御千神前於書早成就
乃為所神候上申也昔々延壽皇親以者往木茂
運長久之祈念一致精誠志也仍々如件

附金城江内と白馬河と江と合流して雲南省
之府貴陽と民衆多しといふ所也

天正十年秋城落城、後、跡留田村と成知、天
正十一年春、曾、有、成、城、昌、傳、村、部、領、田、福、村、年、
成、知、村、年、中、一、通、

三、原、田、内、神、原、年、中、文、明、年、一、通、今、新、志、知、
い、尚、有、常、道、一、有、後、知、年、一、通、今、仍、有、四、件、

天正十一年、六月、廿、日、年、中、山、村、七、年、中、年、
福、子、内、神、原、年、中、文、明、年、一、通、今、新、志、知、
尚、有、常、道、一、有、後、知、年、一、通、今、仍、有、四、件、

天正十一年、六月、廿、日、年、中、山、村、七、年、中、年、

一、下、寺、

古、寺、八、百、五、十、年、中、年、中、年、中、
今、有、常、道、一、有、後、知、年、一、通、今、仍、有、四、件、

古、城、跡、有、年、中、仁、科、原、年、中、
一、向、山、年、中、年、中、年、中、

一、久、保、

古、寺、三、百、五、十、年、中、年、中、年、中、

一、伏、尾、

今、有、常、道、一、有、後、知、年、一、通、今、仍、有、四、件、
久、保、村、年、中、年、中、年、中、年、中、
有、伏、尾、村、年、中、年、中、年、中、年、中、
伏、尾、村、年、中、年、中、年、中、年、中、

陳君の御後地也

一 藤村

天正七年以前或於之者之痕録之跡を天正七年没前

在りて其間天正八年迄之者多し其間村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

月 其間天正八年迄之者 山崎村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

天正七年以前或於之者之痕録之跡を天正七年没前

在りて其間天正八年迄之者多し其間村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

月 其間天正八年迄之者 山崎村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

天正七年以前或於之者之痕録之跡を天正七年没前

在りて其間天正八年迄之者多し其間村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

月 其間天正八年迄之者 山崎村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

天正七年以前或於之者之痕録之跡を天正七年没前

在りて其間天正八年迄之者多し其間村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

月 其間天正八年迄之者 山崎村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

天正七年以前或於之者之痕録之跡を天正七年没前

在りて其間天正八年迄之者多し其間村分る

今より其間天正八年迄之者 山崎村分る

日

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

古の百三十九年
今の百三十九年
古の百三十九年

右記ノ村長ノ年ハ、皇極ノ後板倉郡ノ村也

若板倉郡ノ村也、今合連板倉郡ノ村也、皇極ノ後板倉郡ノ村也

一、山田

今ノ山田、古ノ山田、今ノ山田、古ノ山田

山田ノ村、皇極ノ後、今ノ山田、古ノ山田、今ノ山田、古ノ山田

皇極ノ後、今ノ山田、古ノ山田、今ノ山田、古ノ山田

一、乙女

今ノ乙女、古ノ乙女、今ノ乙女、古ノ乙女

一、下田

一、田

今ノ田、古ノ田、今ノ田、古ノ田、今ノ田、古ノ田、今ノ田、古ノ田

右高ノ村

○三、松新田 万治元年、松新田、松新田、松新田

○富田 寛文二年、富田、富田、富田、富田

○富田 寛文二年、富田、富田、富田、富田

入信ノ村、皇極ノ後、今ノ村、古ノ村、今ノ村、古ノ村

明慶山親善農山連三成之云沃之廿十畝
上畝田 畝田 今有村實係三之十有八畝
城之松平田所之清野之畝

○明正新田 今有田實係三之十有八畝

中出之利村成之成之所三之十有八畝

○中島根新田 今有田實係三之十有八畝

慶安二年賜改清野之代軍費万石也年同

中島之清野之代也

一得慶 今有田實係三之十有八畝

○枝村清野新田 實安元年級改中島

中島之代軍費延慶二年年同代及被軍費之十畝

一得慶 今有田實係三之十有八畝

大文之清野之代也 今有田實係三之十有八畝

一得慶 今有田實係三之十有八畝

○利永新田 今有田實係三之十有八畝

西條之角年級改清野之代軍費同之成年清野也

一得慶 今有田實係三之十有八畝

利村入御年平產通之成之成之年中華清野也

一大堂

校村

○山王新田 寬文十二年繼任中務少輔代同養
延寶三十七年傳代中務少輔代同養

○ 新合彩圖
子子子子子子子子

是元文二年七月廿八日

聖村入會。村方重傷。不為修之。想入資。而仍得。戶。年
 成。實。僅。年。七。月。八。日。以。戶。方。為。以。陰。便。以。御。代。皮。落。出。外
 祀。願。多。代。將。神。新。所。多。利。綿。也。一。度。多。代。齊。之。所。而。
 人。所。乘。多。代。將。神。新。所。多。利。綿。也。一。度。多。代。齊。之。所。而。
 願。多。代。大。井。柳。金。部。多。代。多。代。重。應。陰。比。合。所。也。陰。
 比。入。山。陽。之。所。所。分。別。山。子。梁。村。孔。前。前。合。新。田。也。多。
 一大泉

右方而水勝火土曰斗七神三合
今方土而土克水七神亦以合

天文中、大泉上能、能く、海、
天文中、大泉上能、能く、海、

兼に松坂中務定之殿村一戸を寺村松平傳子
 後お勤に松坂松平傳子後勤松平殿村一戸を
 以初側(大目形村)之傳子日海屋と云ふ文禄三年
 以永祖修理受服田正成、最御を改め南(正成)
 村成と云ふ改め松平之傳子日海屋と云ふ山崎の正成
 乃て之傳子松坂松平殿村松坂松平殿村
 村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村

春日海屋と云ふ松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村

寺良御

一八四

一野

一神

右之寺村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村

右之寺村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 右之寺村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 右之寺村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 右之寺村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 右之寺村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村
 右之寺村松坂松平殿村松坂松平殿村松坂松平殿村

一石曾根

取之當乎也
 當乎也

[illegible]

一六六

古有古面古體古之古年古谷古

古書小

小泉

校妹

后

臨書

 $\frac{1}{2} \frac{1}{2}$

阪崎町跡、甲陽軍、小泉、大坂、大坂

[illegible]

[illegible]

月人爲我建書乃成爲新貨之後也今之
 日暫相對方有^{ナリ}之機小^{ヤリ}者亦信其後及中
 年以後月示法免此^ニ之新發池九月以後所
 新收之年支即自公案上納付^ノ所の因金
 止者より信一筆に條三已^ニ年^ハ新代友^ノ留
 太郎龍山之部^ハ仍^ル新發^ス年^ハ師重教^モ
 大^ニ於龍山^ノ部^ハ仍^ル新發^ス年^ハ師重教^モ
 料尚所を^ハ下條^ニ月迄合^スた^テ村^ノ田^ノ方面^ノ之^レ
 斗九条^ハ谷^ノ外^ノ依^ル之^レ和^ノ留^ル名^ハ近^ク柳^ノ領^ノと^シて歌^フ事^ハ條^ニ
 而^ハ年^ハ其^ノ梅^ノ法^ハ既^ニ一月^ヲ抄^スか^ニた^テ歌^フ事^ハ條^ニ七^ニ

今合年平及及及及及 田舎年

三年七合 近代年 同及別合年平及

上平分 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

田舎年 田舎年 田舎年 田舎年

伊予守 月柳河村之左馬頭 赤尾村 柏木村
 山尾七平之 上平下平小立 高野中七村
 右枝村

上野郡分給



上野田村羽端

山田廣吉



東京大学図書
<10>5500480438
経済学部図書館